

2024年1月11日

全国大学博物館学講座協議会提出

「大学における学芸員養成科目のカリキュラムポリシーに関する意見」の概要報告

全博協委員長大学(明治大学)

代 表 駒見和夫

今回の意見提出は、カリキュラムポリシーと実習ガイドラインの見直しを早急に行うため、そこに養成する大学現場の意見を反映させたいとの文化庁側の要請があつておこなわれました。ただし、全博協の姿勢としては、学芸員養成のあり方をまったくそのままにして、現状の学芸員養成科目の内容だけを見直すのではなく、19単位の枠の中で実習を含めた科目とその内容を見直すべきであり、さらに雇用の拡大と一体化した学芸員資格制度を構築する抜本的な対策（見直し）が本来は必要と考えています。

博物館法改正の公布通知などにも、学芸員制度については中長期的な課題として継続的に検討する方針が明示されており、その一環として今回の意見を集約し提出したわけです。科目のカリキュラムポリシーと博物館実習ガイドラインの内容の修正だけで済ませるといふのではなく、さらなる法改正を含めた改善の推進を求めているのが全博協の考えです。

○各科目のカリキュラムポリシーに関する意見の要約

- ・「生涯学習概論」では、生涯学習社会の構築においてまちづくりと生涯学習の観点が必要、など。
- ・「博物館概論」は博物館学の概論でもあるべきなので、ねらいにおいて「博物館とは何か」という根源的な問いを理解するための能力を養う」ということが必要。また、倫理規定（行動規範も含め）のことを内容に加えるべき。「地域」をより強く意識すべきなので、「地域社会の抱える課題の解決に向けて協働する博物館」といった内容を加える、など。
- ・「博物館経営論」では、「文化観光」という用語や方針、推進方法について一項目を設けるべき。ただし、文化観光に関する記載を偏重しないものとすべき。また、博物館の経営は基本的に営利を目的とするものではなく、ミュージアム・マネジメントの考え方によって行われるべきであることを理解する、といった文言をねらいに入れるべき。さらに、SDGs とのかかわりを加えるべき、など。
- ・「博物館資料論」は、「博物館資料保存論」の棲み分けが曖昧であるため、「ねらい」の冒頭部分「博物館資料の収集、整理保管等に関する理論～」の「保管等」を削除すべき。また、デジタル・アーカイブスの資料論上での具体的な位置付けと、MLA 連携がここで扱われるべき、など。
- ・「博物館資料保存論」では「資料の保全」の内容に「公開方法」を加えるべきでは。また、資料のデータベースの作成などもここでの扱いになるのか、など。

- ・「博物館展示論」は、「博物館展示の意義」の内容に「公開・活用の理念」を加え、展示のデジタル化のこともここで触れるべきではないか、など。
- ・「博物館教育論」には、より実践的な内容が組み込まれるべき、など。
- ・「博物館情報・メディア論」には急速に成長する ICT の実践内容が必要である。また、資料のドキュメンテーション化とデータベース化に欠かせない「収蔵品管理システム」を内容に加えるべき、など。
- ・「博物館実習」では、学内実習の「実務実習」は「展示」ではなく「展示・活動」とし、展示以外の多様な活動も盛り込むべき、など。
- ・全体にかかわって、モデルとなるカリキュラムマップ（履修体系図）の提示も有益ではないか。「体系的に学ぶことの重要性」を大学の学芸員養成課程に訴えることになる。

○「博物館実習ガイドライン」に関する意見の要約

- ・博物館が文化観光の地域拠点としてどのような取り組みを行っているか、実務体験できるように、館園実習の内容に追加すべき。
- ・障害のある学生が実習を希望した場合、どのような条件で受け入れいかなる対応をするのか、ガイドラインが必要。
- ・博物館法の一部改正で、博物館の事業に学芸員その他の博物館の事業に従事する人材の養成及び研修を行うことが明記された（第3条11）。「博物館実習ガイドライン」を博物館側にも周知をお願いしたい。また、インターンシップの積極的な実施も、など。

○根本的な問題に関する意見

- ・本来、学芸員資格取得者（取得段階で）どのような内容の知識と能力が必要なのか、根本的な原則を検討すべきで、現行の科目ありきの議論は適切とは思われません。
- ・ただし、現状の19単位は維持されるべきと考えます。大学教育の場では、CAP制によって年間や学期の履修単位数の上限設定が定着し、学習の質を保障する観点からその条件が厳しくなっています。概ね卒業要件外に配置されている資格科目は履修しにくい状況にあり、これ以上の単位数増は学生の学習の機会や意欲を削ぐこととなります。
- ・現行科目については、総合的に重複する内容が多く、科目名から検討してねらいと内容を精査しなければ不十分です。博物館資料論と博物館資料保存論には重複が見られ、博物館情報・メディア論も博物館資料論や博物館展示論と重なる部分が少なくありません。統合と整理が必要です。また、地域社会とのコミュニケーションに対応した科目が必要との指摘も多く、さらに、実践力を高めるために博物館実習の単位数を増やすことや、これを補足する演習科目などの設置のニーズも強く、19単位の中でカリキュラム全体の見直しが必要と考えます。
- ・大学院における高度博物館人養成の科目設置やカリキュラムづくりの検討を進めている大学もあり、その支援が必要と考えます。

以 上